



学校だより

川口市朝日1-11-3
電話(222)5444

「学校は66歳 そして如月」

校長 山角 厚志

2月は寒くて「重ね着をする」といういわれから「如月」ともいわれております。一年の中で最も寒い大寒を迎えて(1月20日頃から2月の3日)大寒が終わると、季節の分かれ目「節分」があり、そして暦の上では立春を迎えます。梅の芽がほころびはじめ(我が家の桜のつぼみも例年より早く膨らみ始めた気がします)、三寒四温の名の如く、少しずつ暖かい日が増えて春の訪れを待つのも2月です。そして3年生は1月からは受験が始まりました。授業の雰囲気も廊下を流れる空気も微妙に違うものを感じ始めました。今月は私立の一般受験そして月末には県公立高校の入試が控えております。学校をあげて万全な態勢で臨んで参りたいと思います。始業式の週には、「校内書き初め大会」もありました。体育館で、和の音を(琴の音色等)聞きながら、落ち着いた環境で心穏やかに書き上げていました。一学年ごとに雰囲気(学年が上がるにつれ穏やかな雰囲気を感じました)は異なるものがありました。机上ではなく、広いところで行うことで字ものびのびとし、大胆に書いている生徒もいて、日本の伝統美を感じることができました。

「開校記念日」

本校は昭和30年4月1日に開校しました。その年の1月31日を開校記念日とし、今年66回目の開校記念日を迎えることができました。大きなイベントは行いませんでしたが、その前週の27日(土)に、学校公開日を設けさせていただき、当日は331名の保護者の皆様方が来校して下さいました。午後の部活動体験では、小学生とその保護者数約230名が学校にきてくれました。ありがとうございました。その日は図書館を開放し、開校から今までの卒業アルバムを閲覧できる機会を設けたところ、保護者の106名(お子様41名+本校生徒も79名)がアルバムを懐かしそうにご覧になり、今は見ることができないその当時の写真を手に取ってみていただきました。来年も同じ催しをする予定です。今年見られなかった方は是非来年お越し下さい。

本校は昭和53年には1012名となり1000名を超え23クラス、その4年後の昭和57年に生徒数のピークを迎え、1136名27クラスのマンモス学校だったということがうかがえます。ちなみに卒業生(3年生ひと学年・入学時は416名)のピークは昭和59年3月の412名です。その後減少し、平成11年に生徒数526名15クラス(15クラスは9年間続いた)となりました。現在は、少しずつではありますが生徒数クラス数も増え始め、今年度は生徒数706名18クラスであります。今までの総卒業生数は14,899名となっております。今年234名の卒業生が加わると15,133名となり、15,000人を超えます。十二月田中の卒業生は、川口のみならず全国で今の社会を支えてくれていることだと思います。日本の人口は、減少傾向です。少子高齢化が顕著となり生徒数は減少すると見込まれますが、川口市は大手不動産アンケートで住みたい街N01に選ばれたこともあり、十二月田中近辺も人口の増加は考えられます。次年度以降は(3月下旬に学校近くにマンションが建つことから、来年度は人数が増える可能性もあります)7クラスの学年も考えられます。(裏面に開校記念日特集として、本校の人数の移り変わりや校歌の意味などについて載せてございますのでご覧下さい)。

「感染症に厳重なる注意」

残念なことに、先週本校では再度インフルエンザが蔓延し、1年生で一クラス学級閉鎖を行いました。11月にも1年生が4クラス閉鎖をしたわけですが、今世間(世界)では新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始めております。今の社会では川口に住んでいても世界中の人々とふれあう機会があると思っております。咳エチケットや手洗いなどの実施がとても重要と言われております。学校でも指導を継続して参りますが、各ご家庭におかれましても、しっかりとした対応をお願いできればと思います。なお、高熱が出た場合は躊躇することなく医療機関にかかっただけであればと思います。

日	曜	2月行事予定	部活	給食		
				1年	2年	3年
1	土		○			
2	日		○			
3	月	民生委員会議	○	○	○	○
4	火		○	○	○	○
5	水	学校保健委員会 15:40～ 視聴覚・3F会議室 教育相談月間(2者面談開始 28日まで)	○	○	○	○
6	木	短縮45分×6限 専門委員会(3年生最終)	○	○	○	○
7	金	新入生保護者説明会 14:00～ 体育館	○	○	○	○
8	土		○			
9	日		○			
10	月		○	○	○	○
11	火	建国記念の日	○			
12	水	全校集会	○	○	○	○
13	木	3年学年末テスト テスト時制 テスト前部活休止(～21日)	×	○	○	○
14	金	3年学年末テスト テスト時制	×	○	○	○
15	土		×			
16	日		×			
17	月	県公立高校入学願書提出(～18日)	×	○	○	×
18	火	生徒集会	×	○	○	○
19	水		×	○	○	○
20	木	1・2年学年末テスト テスト時制 県公立高校志願先変更(～21日)	×	○	○	○
21	金	1・2年学年末テスト テスト時制 ふれあいDAY	×	○	○	○
22	土		○			
23	日	天皇誕生日	○			
24	月	振替休日	○			
25	火	短縮45分×6限 簡単清掃・帰りの会 職員会議	○	○	○	○
26	水		○	○	○	○
27	木	木1・2・3・4・6・5 3年生公立受検事前指導(6校時)	○	○	○	○
28	金	県公立高校学力検査	○	○	○	×
29	土		○			

3月の主な予定

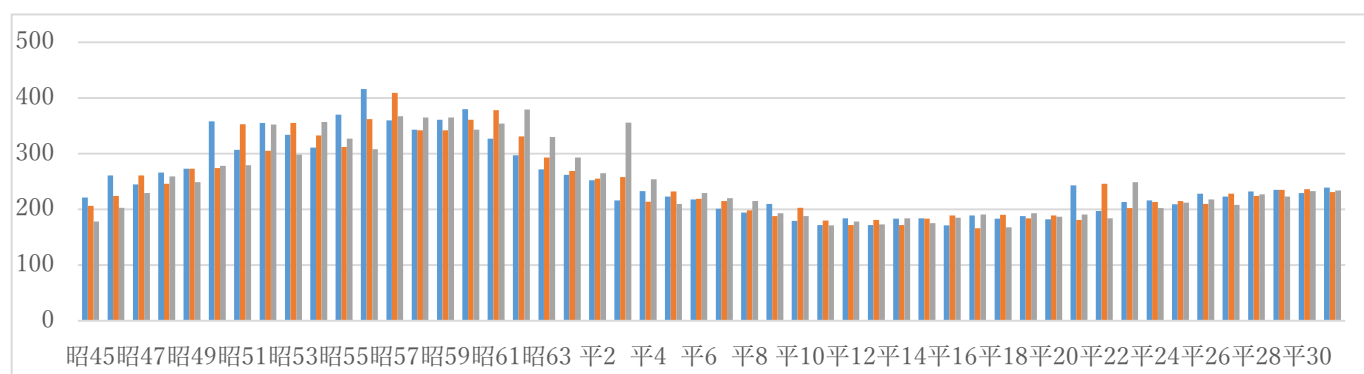
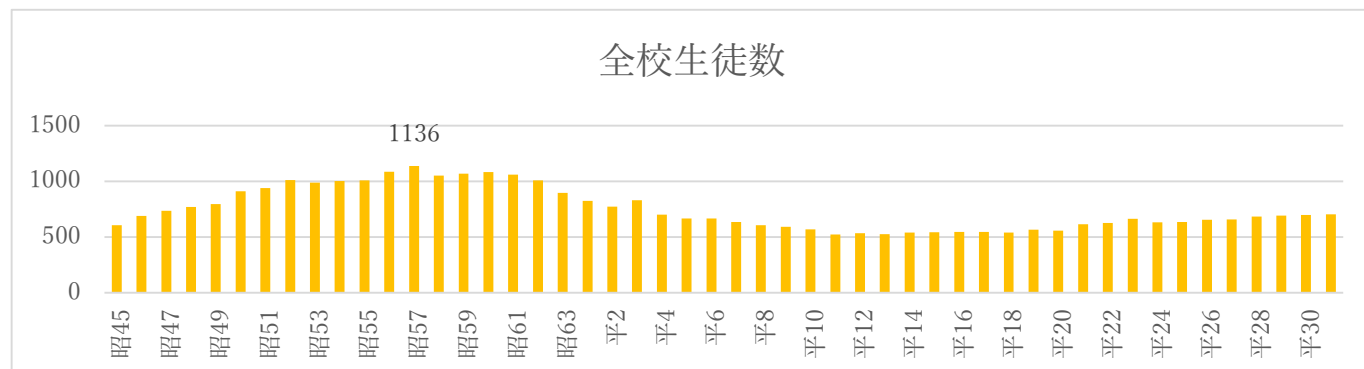
日にち	主な行事	日にち	主な行事
2日(月)	県公立高校実技検査・面接 民生委員会議	16日(月)	専門委員会
3日(火)	全校集会	17日(火)	2年生校外学習
4日(水)	県公立高校追検査	19日(木)	1・2年生期末保護者会
5日(木)	三年生を送る会	25日(水)	新入生1日入学
9日(月)	県公立高校入学許可候補者発表	26日(木)	修了式
11日(水)	卒業証書授与式予行	27日(金) ～	学年末休業日(3月31日まで) 春季休業日(4月1日～7日)
13日(金)	第64回卒業証書授与式		

※皆様からいただいた学校評価アンケートは、2月中に学校だより特別号として結果をお伝えいたします。

開校記念日特集

1月31日は、本校66回目の開校記念日でした。昭和30年1月31日に校舎の起工式が行われ、開校記念日となったそうです。今回は、開校記念日特集です。本校の生徒数の変化と校歌の歌詞の意味について調べましたので、紹介させていただきます。

【生徒数の変化】



※1つの年で3つ接している棒グラフは、左から1年、2年、3年の順です。

校歌

服部 嘉香 作詞
佐々木 すすむ 作曲

一 えんじの色の さやけき校旗

つどいて仰ぐ われらなり

敬愛ほこる 校風に

知識のともしび かざしつ

分け行くは 真理の森よ森

かがやく文化の林よ林

二 晴れたる空に なびける煙

工業都市に われら住む

心をきたえ 身をきたえ

世紀の栄えを めざしつ

あすの日の 力をたくわえて

明るく正しく いざいざ進まん

三 遠山野べを 見わたすかなた

世界をめぐる 海波あり

われらの使命 うち開く

教えはとうとし 自主の道

真善美 のぞみは果てしなし

十二月田 十二月田 ほまれの中学

その名 永久に

歌詞に使われている言葉の意味など

作詞の服部嘉香・・・国語学者、歌人、詩人。埼玉県にて

まらぶ、全国の十八の小学校、中学校、
高校、大学の作詞を手掛ける。市内で
は他に「青木中、元郷中の作詞も行った。

「えんじ」・・・黒を帯びた濃い赤。赤の比喩として、火種

の色、胸の奥に燃えているもの、感情の智

慧の象徴などがある。

「わが校」・・・きりかへぬまじ

「敬愛ほこる」・・・尊敬し、親愛の心を強くせし

「知識のともしび」・・・知識とつとみよきなめから、ともて

た火

「真理」・・・じぶんでも、じぶんでも通用するよきな知識・認

識。

「工業都市」・・・開校当時の昭和二十年、川口は鑄物で栄

えていた。

「世紀」・・・相当の長い期間

「世紀の栄えをめざしつ」・・・長い年月栄えていくよきを

めざしつ

「野へ」・・・野原

「真善美」・・・人間の理想である3つのもの。認識上の真

徳上の善、芸術上の美。

「ほまれ」・・・光栄のまじり。

「その名 永久に」・・・三番の最後のこの部分だけ、独立

した歌詞とリズムになります。

この歌詞にこのよきな思いが込めら

れてるのよきなよ。

校歌の全般的な意味

「一番の歌詞について」 「知」

えんじ色の清らかな校旗を掲げる見上げる生徒の様
子。知識といつともしびをかざし、真理の森に分
け入り、文化の林がかがやく。つまり、学んだこ
とをもとに、より難しい問題も解決し、新たな文
化を切り拓いていくという意味を表しています。

一番は知・徳・体のうち「知」についての歌詞です。
「一番の歌詞について」 「体」

「晴れたる空になびける煙」から、開校当時の川口
の街並みがいかに浮かびます。心と体を鍛え、明日の
力に変え、長い間栄えていられるよき、明るく正し
く進んでいくという力強いメッセージです。二番
は知・徳・体のうちの心も含む「体」についての歌
詞です。

「三番の歌詞について」 「徳」

「遠山野へを見わたすかなた」「世界をめぐる海波
あつ」からは、果てしない広がりを感じます。歌詞
後半の、生徒や学校の理想、十二月田中へ愛校心、
その名前が永久に続いてほしいという思いがかかっ
てきます。途中の「われらの使命」から「自主の道」
の部分は、学校での教えである自主性、自ら切り開
いていく力が大切であるという意味です。三番は知・
徳・体のうちの「徳」についての歌詞です。

愛校心が込められた歌詞で校歌が終わります。